

社説

外債と募集す可し

財政當局が追加募集を構成するに當り、輸出に加入たる削減額四百六十五萬餘圓の内、三千四百八十五萬圓は陸海軍の擴張を始め、他の各種事業に關係するものなりと云ふ元來、本國債募集は借金と公債とに依りて支辨するの計畫にして右削減額の幾割かを以て支辨する事業に依るものなるや、未だ知る能はざるが、公債の募集は、國債の發行を以て、本年度に、四百五十萬餘圓以上の公債を募集して、豫定の計畫を實行するに當り、常局者は、就任以來、財政上の困難に多く、時日を経たれば、其結果として本年度の歳計に現れるものは、單に繼續事業の年度制を變更したるに過ぎず、種々様々の算段を施らして、公債募集の困難を免かるべし、當局者が熱心に希望する所ならん、然れども、目下公債募集の必要なるは、右の如く、なりとすれば、政府は如何にして募集の目的を達せんとするや、戰費以來、經濟社會は、絶えず、通貨膨脹の爲めに、物價の騰貴を促して、金融市場に非常の逼迫を來したるは、明白の事實にして、若し兌換制度の作用を自然に一任するときは、今後、常態に復するの望なきに非ざれば、昨今の如く、輸入超過の爲めに、正貨の流出盛なるに於ては、金融の緩和を容易に望む可らず、現に公債の價格は、九十圓以内、下落したる次第なれば、斯る場合に、政府が、内國市場に於て、數千萬圓の公債を募集するは、策の得たるものと、思はれず、強て之を行はば、いはば、金融の逼迫を招きて、株式を下落せしめ、經濟社會に意外の變を見るや、計り難し、或は、資金を流用して、公債の募集に代ふるは、從來政府の慣手段なれども、要するに一時を彌縫するに過ぎず、資金には既に乏れ、一定の用途あるを以て、安に之を流用するときは、結局他日の困難を招かざるを得ず、政府が豫定の公債を募集するに當りて、斯る困難を免かれざる他、一方には、準備の擴張を始め、而して、新事業は一日も速に完成を期す可きものとすれば、目下の實際に於て、外債募集に必要の財源を求むるの外に、莫かる可し、昨年十月以來、幣制は金貨本位に改まり、我公債も同時に金貨公債となりたるに、拘はらず、市場に於て、コンソール公債に比して、相當の價格を保つめ、能はざるは、如何なる次第なりやと云ふに、外國資本家の考を以てすれば、日本の公債は、積年、短くして發行せし五年を經過すれば、何等の利益を以て、發行取入らるるや、其利益は、何れも、永く五分の利率に收むる能はざる、其上に、日本の債權は、金貨本位とは云ひながら、今後の金貨比價の變動如何に依り、果して之を維持するや否や、或

北京特報 (三月廿九日) 特派員

露清條約の調印 露國多年の目的たる、東方不遼遠占據の一事は、膠州事件、端なく、遼東、龍口となり、幸に日英の反對を受け、首尾よく其目的を達し、愈々一日廿七日を以て、旅順大連借入の條約に調印したり。其條約の大意は、巴に之を報道せしかば、重復を避けて、今又茲に再録せざるべし、聞かば、廿七日、軍は該地より、守備兵を撤退し、露國水兵は直に、歇呼、麗海上陸して、高く三臂旗を翻したり。ウーガク大佐は該地の總督となる由にて、巴に北京を去りて、該地にあり、旅順、遼東兵房の遺蹟等は、他日更に再調印を行ふ筈にて、區域の如きも、唯だ、其大略を前定せるのみなれば、其詳細に至りては、隨て、他日露報に於て、詳報、露政府と調印すべしと云ふ。

京城特報 (四月一日) 特派員 藤佐 彬

法部大臣の回答 裁判に依らずして、池錫永、外三氏を流十年に處したる件に關して、獨立協會が書を法部大臣、李裕憲氏に致したるは、既報せし所なるが、李法部は之に覆書して曰く、敬啟者、貴國憲法、明正法律、果保有之、大政、而令此種、非人處刑、其罪、名、何、初、奉、有、明、詔、無、容、更、加、加、重、刑、業、經、欽、遵、行、兩、重、罪、無、非、上、天、造、化、之、教、恐、不、必、致、煩、會、同、惟、貴、員、之、照、亮、仰、盼、是、以、明、日、大、臣、大、臣、之、罪、を、國、王、に、歸、せ、ん、と、欲、す、者、獨、立、協、會、默、許、し、止、む、可、き、に、非、ず、と、し、一、昨、三、十、日、獨、立、協、會、に、集、會、し、て、協、議、したる、結果、此、際、若、し、其、運、動、方、法、に、一、步、を、誤、れ、ば、惜、を、國、王、に、受、けて、會、員、の、不、幸、を、調、る、可、し、と、あ、る、可、し、と、此、覆、書、に、對、して、は、別、に、追、録、せ、ず、し、て、止、む、に、決、し、全、華、北、道、觀、察、使、李、完、用、氏、に、謝、辭、を、呈、す、る、件、を、議、し、て、散、會、し、たり、と、云、ふ。

倫敦の慶應義塾同窓會

倫敦在留の慶應義塾出身者は去る二月十九日、正金銀行倫敦支店長中井芳楠氏の宅に同窓會を開き、安岡雄吉、福崎行信、各務謙吉、其野秀雄、松本開齋、平生鏡三郎、野田清南、岸幹太郎、南條金雄、今井友二郎、其野之丞、中井芳楠の諸氏出席して互に在留中の舊事を談じ、又東洋の形勢など論じて時の移るを知らず、福澤先生并に義塾の萬歳を祝して歡會したるは、夜半過ぎなりと云ふ。此際、慶應義塾の義塾生本金の話も出で、即座に寄附を申込むもの少からず、其額合せて八百六十圓に達したりと云ふ。

衛生方針調査委員會

昨日午後一時より東京府廳に於て衛生方針調査委員會を開き、長谷川肥塚兩氏主任となり、調査したる衛生機關の組織に關し、協議する處ありしが、其組織は東京府廳内に衛生部を置き、各區に支部を設け、傳染病流行時にありては、臨時多數の官吏を増加する筈にて平常は一定の制服を着し、衛生事務に據するの方法なるが、尙ほ再三協議の上ならで決定せざる可しと云ふ。

犯罪の美術

戸田に再び追られて、笑つて手にしたる、深く考へ沈む者なり。鳥尾は之を見て、例の病癖なれば、その之を語りたさき、山々なれども、扱て此に語り難れたる仔細のありて、斯くは語るに躊躇ふものならんと思ひたり。思ひ定めてや、少時わたりて笑つた。「イヤ、それで話さう」と、漸くに呻き出す。隣室の彼は、是に「ヤ、笑いなりけり。」「話さう、だがその前に、君達から、之を誰に話さう、だかその前に、約束を得たい。それは外でもない、世間では、信が、お前の、消之切でもない、今日、若し僕の話したるが、新聞にでも出やうものなら、何か後で作つて、大に思はれるの、僕に實に下さらないから、と云ふに、兩人は、直に他言すまじと誓ひ、假て、笑つて出づらう。

前警務使金在堂

警務使金在堂氏は既報の如く、宮廷に於て罪人を捕拿し、國王の遺體に觸れたるが爲め、免官となりしが、氏は今や囚人として高等裁判所に在り。